



みなみせや

真っ白な計画表と、母の願い

教務主任 大場 健司

「宿題はやったの?」「いつまで遊んでいるの!」「明日の準備は?」
 …耳が痛いですね。これらは、私が小学生の頃、母から毎日のように浴びせられていた言葉です。「うるさいなあ…」なんて毒づきながら、その場しのぎの嘘をつく。そんな毎日過ごすやんちゃ少年でした。

夏休みになると、母はカレンダーの裏紙に「手作りの計画表」を作ってくれました。でも、私の計画表は最後まで真っ白。最終日に怒りに震える母の姿を、今でも毎年夏休みが近づくと思い出します。

当時は「なんでこんなに言われなきゃいけないんだ!きっとオレのことが嫌いなんだろう…」とっていました。でも親になって、そして教師になって思うのは、母は私に「自分で自分の時間を決める練習」をさせてくれていたんだな、ということです。大人になってから困らないようにと、「自立」への一歩を促してくれていた。そんな母の願いに気づくのに、随分と時間がかかってしまいました。

さて、そんな「やんちゃ少年」だった私から見ると、南瀬谷小の子どもたちの4月からの3カ月は、本当に輝いていました。

まずは「あいさつ」です。あいさつは、相手を認める大切な第一歩。私は毎朝東門に立っていますが、南瀬谷の子は目を合わせ、明るく元気にあいさつができる子が多いです。ご家庭では、いかがでしょうか。

低学年の子は、朝の準備を当たり前のように自分で済ませることができるようになりました。困っている子に「大丈夫?」と声をかける姿にも、心の成長を感じます。

中学年は、難しい課題にも「まずは、自分で考えてやってみよう」と粘り強く挑戦中です。途中で投げ出し諦めてしまう子が少なく、自ら学んで解決しようと前向きに学ぶ姿が増えてきています。

高学年は、たてわり活動や委員会活動で全校をリードする姿が実に頼もしいです。目に見えない「人・もの・こと」について考え行動する姿が見られ、その「想い」がじんわりと全校に広がってきているのを感じます。



みんな、毎日の積み重ねの中で、少しずつ「自分の力で歩くこと」 「自立」を始めているのです

さて、7月18日(土)から夏休みが始まります。「長い休みに何をするか」。大人が決めてしまえば、スムーズに進むことでしょう。でも、この長い休みこそ、あえて「自分で考え決める」チャンスにしてみませんか。

自分で計画を立て、やってみて、時には失敗して「あちゃー」と修正する。もちろん全て子ども任せにするのではなく、大人は「よき相談相手」になる。「どっちにしようか?」と選択肢を用意するのも1つでしょう。そして、「ああ…ほらあ…やっぱり…」とたとえ失敗すると分かっている、その遠回りのプロセスを一緒に過ごし、楽しんでみる。この経験こそが、子どもたちをたくましく育てると私は思うのです。

私も、今年の夏は我が家で、子どもたちと向き合ってみようと思っています。母の怒った顔を思い出しつつ、わが子の計画表が真っ白で夏の終わりを迎えても、それも一つの成長として一緒に楽しむ心の余裕を持ちたいと思っています。当時の母の願いに、そっと心を寄せながら。

結びになりましたが、4月からの3カ月、本校を支えてくださった保護者の皆様・地域の皆様に心から感謝しております。引き続き、本校の教育活動にご理解・ご協力お願いいたします。

6月19日(金)に南小地域応援隊「見守り隊」と保護者・地域の皆様と教職員で
 通学路危険個所の現地確認会を実施いたしました。
 ここでの検討を基に今年度のスクールゾーン協議会に臨みます。
 アンケートを始め、ご協力いただき、ありがとうございました。

